

公安委員会会議録

開催日時	自 午前 10時00分 令和7年4月16日(水) 至 午前 10時57分
開催場所	山口県警察本部公安委員会室、同公安委員室
出席者	公安委員 今村委員長 野村委員 弘永委員

第1 審議概要

本部長、警務部長、生活安全部長、地域部長、刑事部長、交通部長、情報通信部長及び公安課長同席の上、下記の報告を受けた。

1 殉職・受傷事故防止訓練（凍結路面对策）の実施結果

地域部長から、

令和7年2月7日に発生した交通街頭活動中における殉職事案に対し、同種事案の再発防止の徹底を図るため、スケートリンクを活用し、凍結路面对策として受傷事故防止訓練を実施した。

ア 訓練日時及び場所

令和7年4月7日(月) 午前10時30分から正午までの間
くだまつ健康パーク スポーツプラザ

イ 訓練参加者

各警察署員、高速道路交通警察隊員、自動車警ら隊員等計77名

※ NEXCOパトロール中国等7名及び他県警察から3名参加

ウ 訓練状況

(1) NEXCO職員による説明

「NEXCO職員も底部に突起のある冬用長靴を着用しているが、ヒヤリとした場面があった。」といった説明や、「気象情報を把握して現場に赴くが、見た目だけで判断すると危険である。」などの説明がなされた。

(2) 各種訓練

スケートリンクを凍結路面に見立て、凍結路面对策として、殉職・受傷事故防止訓練を実施した。

○ 革靴や長靴等を使用し、凍結路面での歩行訓練

凍結路面では、滑りやすく歩幅を狭くして歩行する必要があった。

○ 滑り止めスパイクの着脱及び凍結路面での歩行訓練

チェーンアイゼンやワンタッチ式スパイクは凍結路面での歩行が可能であったが、携帯用簡易スパイクは歩行中に外れやすいといった特徴があった。

○ セフティコーン等の装備資機材搬送訓練

装備資機材を運ぶために両手がふさがることから、通常よりゆっくり歩行する必要があった。

○ 凍結路面を想定した交通規制要領や停止合図要領、装備資機材の活用訓練

事故現場では、進行方向からの車両等を警戒しつつ、いざというときの避難場所等の確保を行った。

(3) 反響

「県民の命を守るためには自身の命をまず守らなければならず、気を緩めることなく殉職・受傷事故防止に努めたい。」といった意見や、「凍結路面での活動経験がないが、凍結路面を具体的にイメージできた。」などの反響があった。

エ 今後の予定等

既に自動車警ら隊において独自の訓練を実施しており、今後は、夜間や雨天時における実践的な訓練を実施していく予定である。

旨の説明があった。

野村委員から、「訓練について、自身も視察したのでよく理解できた。山口県内では凍結路面を歩行する機会が少ないと思うので、訓練を通じて凍結路面を想定し、経験しておくことは重要である。滑り止めスパイク等を装着していれば、転倒に対する不安を減らし本来の職務等に集中できるのではないか。今後は、使用上の問題点など、現場の意見も聞いてみてほしい。」旨の発言があった。

弘永委員から、「殉職事案を受け、速やかに訓練を行ったことは有意義であり、素晴らしいと思う。滑り止めスパイク等の装備により、転倒しにくくなると思うが、それでも転倒の危険性はあるので、身体を保護してくれるサポーターなどあれば、さらに良いのではないか。」旨の発言があった。

今村委員長から、「殉職事案を受けて、即行動に移されており、良かったと思う。訓練に参加した職員の多くは、凍結路面での歩行が初めての体験だったのではないか。今後は、冬シーズンを前に滑り止めスパイク等の着脱訓練を行えば効果的であると思う。ところで、滑り止めスパイク等はどの程度配備されているのか。」旨の発言があり、地域部長から、「現在は約200セット配備している。今後は、全てのパトカーに配備できるよう、追加配備を検討している。」旨の説明があった。

第2 決裁・報告

課長等から下記のとおり説明を受け、決裁を行うなどした。

1 報告概要

(1) 業務報告

警察本部長から、令和7年度上半期の業績目標について報告を受けた。

(2) 山口県公安委員会事務の専決状況

交通企画課長から、3月中の交通企画課関係の山口県公安委員会事務の専決状況について、警備課長から、3月中の警備課関係の山口県公安委員会事務の専決状況について、それぞれ報告を受けた。

(3) 令和7年春の勲章伝達式の実施

監察官室長から、5月8日に実施される令和7年春の勲章伝達式について説明を受けた。

第3 協議

今後の公安委員会における運営について、協議した。